

財団活動のいま…

今後、調査研究部門が目指す方向

十年後の「22ビジョン」の基で十月からスタートした調査研究部門の新体制発足について、『観光文化』219号の当欄で紹介しました。今号では各部署の責任者が、今後の業務や役割、そして今後目指すことを語ります。

観光政策研究部

役割と今後の方針

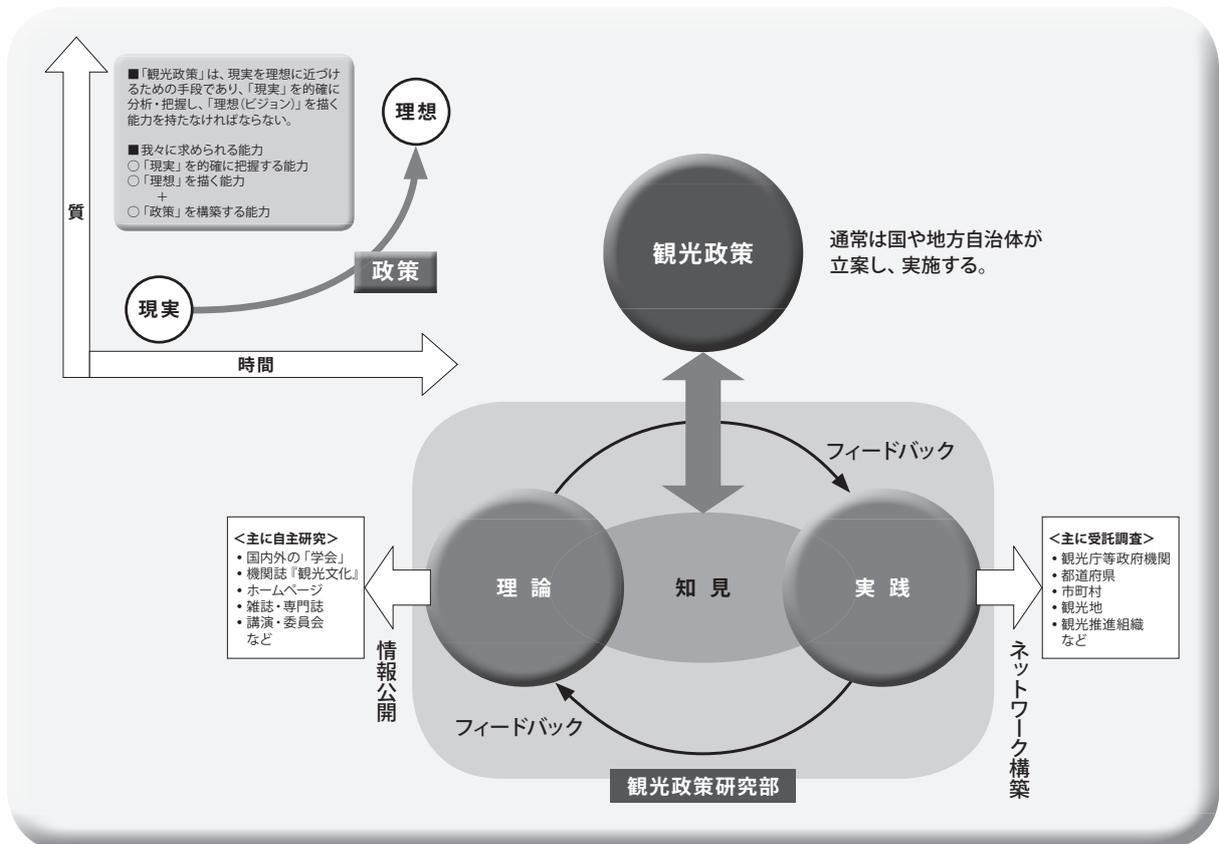
① 観光政策と当部のミッション

われわれのミッションは「観光政策を研究すること」ではありません。そもそも「政策」とは、「現実」を「理想」に近づけるための「手段（ツール）」であり、「観光政策」は「望ましい観光の姿や魅力ある観光地を実現させるための「手段」であると考えています。確かに観光政策はまだ未成熟な研究領域であり、われわれの研究対象であることは間違いないのですが、われわれの真の役割は、「国や地域の観光統計や観光地の実態

分析などを通じて、観光と観光地の『現実』を的確に把握し、そこから『理想』（ビジョン）を描き出して実現に導く一助となること」にあります。

② 政策構築能力の向上に取り組む

これまで、われわれは往々にして「現実の把握」と「理想の提示」にとどまっていたのではないかと認識から、これからは「現実」を的確に把握する能力と「理想」を描く能力に加えて、実現に導くための「政策」を構築する能力の向上に取り



組むことが必要だと考えています。

観光分野の場合、現実を理想に近づける手段としては、政策的なアプローチのほかに、観光関連業界への働きかけや住民参加などのコミュニケーションへの働きかけなど多種多様であり、ケース・バイ・ケースで使い分けていく必要があります。

③「理論」と「実践」の双方から「知見」を抽出し、観光政策に生かす

初めから「理論」があるわけではなく、実践から帰納的に導き出される「理論」が大切です。一方、「実践」といっても現場に入り込むだけでなく、どまるのではなく、そこで得たデータや経験を帰納的に普遍化・体系化し、「知見」として形式知にすることが求められます。われわれは、可能な限り「理論」を「情報公開」し、「実践」のフィールドを国内外に確保しながら、現場とのネットワーク構築を進めていきたいと考えています。

②自ら成功事例を創り出せる能力を持つ専門家集団を目指す

「知恵は現場にあり」……。地域

の優れた取り組みや観光地の現場で起こっている諸課題を常に敏感に察知・分析し、自ら成功事例を創り出せる能力を持った専門家集団を目指すと思います。それに向けた準備として、今年度は部内に「観光政策勉強会」を立ち上げ、自らが置かれている立場（ポジショニング）を

観光文化研究部

今後の取り組み

名称から想起する直感的な組織像は、「ひとびとが観光活動を通して創造した心と振る舞い、社会のありさまの研究に取り組む集団」とでもなるでしょうか。観光文化の研究とは、果てしなく大きなテーマです。友人の学者から、「あなたの部署名は文化の研究だから、何をやってもいいじゃないですか」と声を掛けられました。範疇はんちゆうにこだわらずさまざまなことを勉強べんけんしなさい、理ことわりだけではなく本質を探りなさい、という叱咤しつただと受け止めています。

歴史を振り返り観光文化を回想

理解しつつ、目指すべき方向とミッションの共有化を図っていきます。そして、当部だけの部分最適ではなく、当財団調査研究部門の全体最適を図るため、観光文化研究部、観光研究情報室との連携を強力に進めてまいります。

（理事・観光政策研究部長 梅川智也）

する作業は先送りし、当面は、いま起きていることを注意深く見つめることに集中したいと思います。

まずは観光行為に直接関与する主体ごとに、観光との関わり合い、それによる状態変化を丁寧に調べていきたいと思います。

四つの主体を想定しています。一つ目は観光客。彼らの意識と行動、そして観光の効用を徹底的に調査します。

二つ目は観光対象となる資源のこ。自然、歴史、郷土景観や生活文化、などを整理し、その価値にも踏

み込みます。

三つ目は観光産業。経営的な側面、マーケティング、地域社会での行動などにも注目します。

四つ目は観光地域の住民について。観光客を迎えることによる意識や暮らしぶりの変化などを探ります。

そして、このような調査を継続していきます。状態を言葉で記述することが重要です。端的な指標を設定して数量的に表現することも検討します。

これらの主体間の関わりが創造する何らかの価値に気づき、その移り変わりをみていくことが、観光文化を追いかけることにつながらないものかと、考えています。

基礎的な研究を続ける一方で、その過程や結果を広くフィードバックすることによって、持続可能な観光環境づくりに関与していきます。

たとえば、観光はときには主体に対してネガティブなインパクトをもたらします。そのことを予見し、回避する手段が必要です。その手段となりうる政策や制度、コミュニケーションなどの研究も行います。具体

策とともに、背後にある基本的な考
え方こそ重要です。やはり、さまざま
まなことを勉強しなければなりま
せん。

当部は、観光文化の探究と実践
を目指す動きのある集団でありたい
と思います。
(理事・観光文化研究部長 寺崎竜雄)

観光研究情報室

「観光研究情報」を鍵に創発的な活動へ

二〇一三年十月、当財団の活動内
容や調査研究成果の積極的な公開
と発信を行うため、「観光研究情報
室」を発足させました。

公益性を一層意識した活動や研究
へと深化させるため、それらの成果
をより広く公開・発信し、観光に関
わる多くの研究者、政策立案者、実
践者の皆さまとコミュニケーション
したいと考えています。

「情報とは、調査結果やデータそ
のものだけではなく、分析、評価
編集された、意味・価値を有するも
の」「人の心を動かし、新たな行動
の動機づけとなる力のある情報が実
践につながる」。

当室発足に向けての内部会議で
はこのような議論をしてきました。

「一方的に公開するだけでなく、
双方向のコミュニケーションが新た
な知見を生む。ご批判いただく覚
悟も時に必要だ」。「情報」も「公開」
も耳慣れた平易な言葉だけに、扱う
姿勢や捉え方が重要だと認識してい
ます。
具体的には大きく次の四点につい
て取り組みたいと考えています。
まず、当財団のホームページや機
関誌・刊行物を情報公開のメディア
として総括的に活用し、研究員の活
動や各種研究会の成果を積極的に
発信していきます。
次に、観光に関する調査研究の相
談窓口を運営し、これまでの活動の
中で得た知見や経験の提供による支
援に努めるとともに、情報受信基地

として社会の諸
課題に関するア
ンテナを高め、
研究員の問題解
決力の向上を図
ります。
さらに、「旅の
図書館」を当室
が一体的に運営
し、これまでの
機能に加えて、
観光に関する学
術的資料の収
集・公開を強化
していきます。
最後に、海外
の研究動向や学
会活動の紹介、
収集した観光研究情報を分析した
レビュー等にも新しく取り組み、国
内外で進む研究の潮流を俯瞰し見
通す、観光研究情報センター機能の
構築を目指していきます。
当室は、観光研究情報をキーワー
ドとして多くの方々とのコミュニ
ケーションを通じた創発的な活動を
展開し、当財団の経営理念である「観

光を通じた豊かな社会の実現」に向
けて貢献したいと考えています。
日本の観光研究の発展および観
光の現場における実践に役立つこと
が、観光研究情報室の使命であると
認識しています。今後の活動にご期
待ください。

(観光研究情報室長・旅の図書館長

久保田美穂子)

公益財団法人日本交通公社の新たな調査研究体制 (2013年〔平成25年〕10月1日以降)

公益財団法人 日本交通公社

観光政策研究部

各種テーマに関する調査研究、外部研究機関・地域等と共同した研究会の設置・運営

(主な研究テーマ)

- 温泉まちづくり
- インバウンド政策
- 観光と地域経済・波及効果
- 観光地づくりの財源
- 観光地づくりと住民意識 等

観光文化研究部

(主な研究テーマ)

- 観光客の意識や行動、満足度
- 利用者の視点に立った自然公園の在り方
- 観光資源の評価
- 観光地における政策指標 等

各種メディアを通じた研究成果の積極的な公開

- セミナー・シンポジウム
- 刊行物
- 研究論文
- ホームページ掲載 等

観光研究情報室

研究活動や研究成果の総括的な広報

- ホームページの編集・運営
- メールニュースの発信
- 会員等への情報提供
- 機関誌「観光文化」の発行
- 観光研究・調査相談窓口
- 大学や地域との連携促進

「旅の図書館」運営 ●観光・旅行に関する学術的・文化的文献を収集・公開

- 積極的に利用され、さまざまな観光研究が創出される図書館づくり